

羽村市史編さんだより

令和元年10月

第19号

# 伸びゆくはむら

特集

紙記録を残すために

3

1 News

2 資料紹介

4 部会の手帖

5 市史編さんの足あと

5 コラム「ちっとんべえ」

## 第5回羽村市史関連講座を開催します！

### 「羽村市域の中世」 (仮)

講 師 深澤靖幸さん（羽村市史編さん部会第1部会長／府中市郷土の森博物館学芸係長）

日 時 令和元年12月7日（土）午後2時～午後4時

会 場 羽村市生涯学習センターゆとろぎ 講座室1（羽村市緑ヶ丘1-11-5）

定 員 80人

参加費 無料

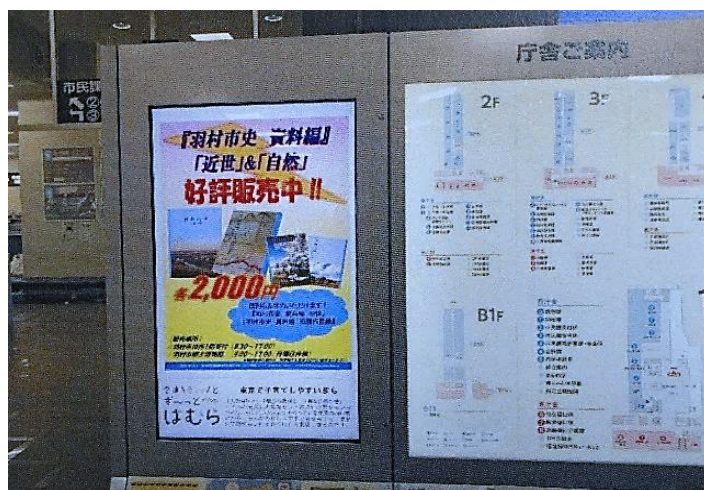
※事前予約の必要はありません。当日直接会場へお越しください。

## デジタルサイネージ、活用しています！

羽村市役所1階正面玄関入口から入って、総合案内へ向かって右側、「庁舎ご案内」の横に羽村市から市民の皆さんへPRしたいことを表示する「デジタルサイネージ」が設置してあります。

これまで市史編さん室では、羽村市史編さんだより「伸びゆくはむら」や「広報はむら」「羽村市公式サイト」で『羽村市史』の編さんに関する情報をお知らせしてきました。

このデジタルサイネージも活用して、今年度で開催予定の「第5回羽村市史関連講座」や、『羽村市史』の刊行・頒布の情報などをお知らせしていきます。



▲デジタルサイネージ

## 近隣自治体の市史編さん担当部署と協力しています

現在、多摩地域では、羽村市のほかにも市史編さん事業を進めている自治体があります。各自自治体の歴史はそれぞれですが、その市を理解するために、他市の「市史」で利用されたものと同じ資料を利用することもあります。

このような場合は、所有者、資料の内容などの情報交換を行い、効率的な調査を進めることも少なくありません。中でも個人所有の資料調査は、資料の劣化や所有者のご負担を考慮して、合同で行ったり、写真画像の相互提供を行うこともあります。羽村市でも、資料の情報提供を受けたり、所有者の同意のもと資料写真画像の提供を行っています。



### 表紙の写真

### マイクロフィルムとデジタルデータ

このマイクロフィルムの写真は拡大したものです。実際は、上が幅35mmで図面の記録に適していて、下は幅16mmで文書の記録に適しています。どちらも最大で30mほどの長さになるので、リールに巻いて保存します。リール1個に保存可能な画像枚数は、幅35mmが約1,200枚、幅16mmが約2,500枚です。

デジタルデータは、同時に複数の画像を表示することができます。閲覧がしやすく、多くの画像の中から目的のものを探すときにとっても便利です。

# 資料紹介

今号でご紹介する資料は、『羽村市史 資料編 自然』からとりあげました。

## 「図3-14 砂岩」 (資料編67ページ)



『羽村市史 資料編 自然』の「第3章 多摩川」の3-4節では、多摩川で観察される石（学術的には礫(れき)）の種類が紹介されています。

羽村市を流れる多摩川の河原では、奥多摩の山々から運ばれた石が多くみられます。資料編67ページの図3-14では、羽村市付近で観察される砂岩(さがん)堆積岩(たいせきがん)を掲載しています。

堆積岩は礫や砂、泥、火山灰、生物の遺骸(いがい)などが長い年月をかけて固まってできた石です。多摩川上流域の山々は、砂や泥が固まった砂岩や泥岩の他に、生物の遺骸から成るチャートや、石灰岩などの堆積岩で主に構成されています。

中でも砂岩は多摩川で多く観察される石の一種です。多摩川の河原では様々な形・模様をした砂岩を観察できますが、どれもよく見ると小さな砂粒(すなつぶ)が集まっているのがわかります。

写真を見てみましょう。4枚の写真は、すべて砂岩です。よく河原で観察されるこれらの代表的な砂岩は、次のような特徴をもっています。

(a) 粒々とした小さな砂粒と全体的に灰色がかっているのが特徴です。

(b) 砂粒の大きさの違いによって縞模様が表れています。よく見ると明るい色の縞の方が暗い色の縞よりも大きい粒の集まりであることが観察できます。

(c) 海底にたまっていた泥が、勢いよく流れてきた土砂の力で引きちぎられて砂に混ざり固まってできました。泥のかけらの部分がまるでチョコチップのように見えます。

(d) 泥岩と砂岩がマーブル状に固まってできています。

市民の身近な憩いの場となっている多摩川の河原には、このような様々な石があります。皆さんも観察してみてもいいのではないでしょうか。

# 特集 紙記録を残すために

皆さんは100年前の手紙や新聞を見たことはありますか？

羽村市郷土博物館では、羽村出身の小説家である中里介山の貴重な直筆原稿を見られるほか、羽村市図書館では、当時の新聞の縮刷版を所蔵しており、直接自分の手でめくって、記事を読覧することができます。しかし、頻繁に手に取って利用すると資料の劣化が進み、紙媒体をそのまま残すことが困難になってしまいます。

そこで、資料の所蔵施設では、長く保存でき、より利用しやすい記録媒体に代えて資料を提供する試みが行われています。

今回は、紙記録を残すための二つの記録媒体について見ていきます。

## 《マイクロフィルム》

マイクロフィルムは、資料を縮小複写してフィルムに保存する記録媒体です。記録面がとても小さいので、読覧する時はマイクロフィルムリーダーという機械を使って拡大します。1つのマイクロフィルムで、紙資料に換算して1,000枚分以上を記録することができます。

マイクロフィルムの長所は、保存年数が100年以上で、長期保存が可能であることです。この保存性は、国際標準化機構ISOに正式に認められており、正しい保存条件であれば、500年は保つといわれています。

また、マイクロフィルムは、改ざんしにくい特性から、法的証拠能力を持ち、行政文書の最適な保存方法として、多くの官公庁で利用されています。羽村市役所でも、長期保存する大切な公文書は、撮影し、マイクロフィルムで保存しています。

なんだか仰々しく感じるマイクロフィルムですが、一部の地域図書館で気軽に読覧することができます。実は、意外と身近な記録媒体なのです。



▲マイクロフィルム  
何mもあるフィルムが巻かれています。



▲マイクロフィルムリーダー

## 《デジタルデータ》

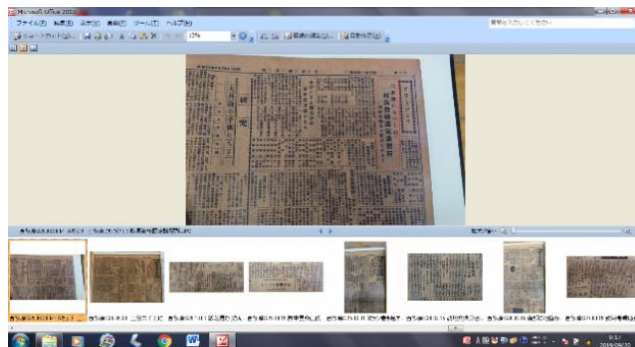
デジタルデータは、資料を画像や映像などのように情報化して保存する記録媒体です。保存に場所を取らず、貴重な昔の資料でも、劣化を恐れることなく使用できるので、大変有効な記録媒体として導入する機関が増えています。また、資料をデジタルデータ化することで、検索機能が使え、欲しい資料を簡単に見つけることができます。

これらの長所を生かして、文化財資料のデジタルデータをインターネット上で公開し「いつでも・どこでも・だれでも・自由に」利用できるようにしたデータベースを、「デジタルアーカイブ」といいます。例えば、国立国会図書館や東京国立博物館では、インターネットを利用して、家にいながら簡単に一部の所蔵資料を読覧できるサービスを提供しています。

このように、様々な記録媒体のおかげで、私たちはより簡単に過去の資料を利用することができ、未来に残せるようになりました。市史編さん室では、羽村市に関連する資料を探すうえで、現物資料だけでなく、このような記録媒体で保存された資料も幅広く収集・活用していきます。



▲CD-ROM(左)とポータブルハードディスク(右)  
デジタルデータは物理的な大きさがないので、小型の記憶媒体に大量に保存することができます。



▲デジタルデータ閲覧画面  
デジタルデータは、パソコンなどで読覧でき、資料を拡大して細部まで読覧することもできます。

# 部会の手帖



各部会の活動の様子を紹介します。

※7～9月の活動をお知らせします。

## Q 用語の解説

\* 茶垣…お茶の木で作った生垣のこと。

### 第2部会 ～近世～

資料編の刊行を終え、本格的に本編に向けた作業を進めています。

本編の執筆内容・分担について、どのような構成で進めていくか意見を募り、編さん委員会など全体での意見交換が行えるよう、部会としての方針を集約しています。

### 第4部会 ～自然～

気候班は、7月末に市内全域で気象観測を行いました。前日まで台風の影響が心配されましたが、当日には天気は回復し、晴天にも恵まれました。

引き続き本編刊行に向けて作業を進めていきます。



### 第1部会

#### ～原始・古代・中世～

資料編の原稿執筆を進めています。

あわせて、過去の遺跡発掘調査で撮影されたフィルム写真の確認を行い、掲載写真を選別しました。また、発掘調査時に作成された遺物の図版と、実物の両方を確認しながら、より精細な図の作成を進めています。



### 第3部会 ～近代・現代～

東京都公文書館や市外の図書館で、羽村に関する資料の調査や収集を行いました。収集した資料については、筆耕作業も進めています。

また、羽村市役所で保存している行政文書を整理しつつ、聞き取り調査の準備をしています。

### 第5部会 ～民俗～

資料編刊行にむけて、聞き取り調査を継続しています。また、市内の坂・茶垣・農産物直売所の出荷風景・旧下田家住宅のほか、はむら夏まつりや玉川神社秋季例大祭などを撮影しました。

このほか、わかりやすい内容とするため、さまざまな資料をイラストにおこす作図作業も並行して進めています。

# 市史編さんの足あと

※①～⑤は部会の数字です。(例) ① ⇒ 第1部会

月	日	できごと
7月	1日(月)	①市内資料調査(羽村東小学校) ⑤資料作図作業(市史編さん室)
	4日(木)	③市外資料調査(府中市) ※以後、定期的に実施。
	8日(月)	⑤資料作図作業(市史編さん室)
	10日(水)	⑤市内風景撮影(農産物直売所、個人) ⑤市内聞き取り調査(個人)
	15日(月)	羽村市史編さんだより第18号発行
	27日(土)	⑤市内行事調査(はむら夏まつり)
	28日(日)	④市内調査(気象観測) ⑤市内聞き取り調査(個人)
	30日(火)	①市内資料調査(羽中)
	8月	2日(金)
17日(土)		⑤市内行事調査(郷土博物館)
20日(火)		①市内資料調査(郷土博物館)
～23日(金)		

月	日	できごと
8月	22日(木)	③市外資料調査(東京都公文書館)
	25日(日)	⑤市内行事調査(玉川神社秋季例大祭) ⑤市内聞き取り調査(個人)
	29日(木)	⑤市内資料調査(郷土博物館)
9月	9日(月)	①資料調査(市史編さん室)
	10日(火)	①資料調査(市史編さん室)
	12日(木)	①資料調査(市史編さん室) ⑤資料作図作業(市史編さん室)
	13日(金)	⑤資料作図作業(市史編さん室)
	17日(火)	⑤資料作図作業(市史編さん室)
	18日(水)	⑤資料作図作業(市史編さん室)

## 「伸びゆくはむら」バックナンバーについて

以下の場所でご覧いただけます。

- 市史編さん室(市役所西庁舎3階)
- 羽村市図書館(3階地域資料コーナー)



このほか、羽村市公式サイトでも  
ご覧いただけます。

## コラム

# ちっとんべえ

羽村市内の縄文時代の遺跡からは、土器のほかにも多くの石器が遺物として出土します。今回は石器の実測図についてご紹介します。

実測図を作成するときは、寸法や重さ、石の種類を記録する他、石器の表面の特徴を観察していきます。

最初に、石器の上下や表裏の向きを正しく把握します。そして、基準となる線を引いた方眼紙の上に、練り消しゴムで石器を固定します。水平に置くことが、思いの外時間を要します。三角定規や短い三角スケールを石器の縁にあてて、方眼紙の上に測点を記します。石器をはずして測点を結べば、石器の外周が描けます。とても原始的な方法だと思うかもしれませんが、これが基本なのです。

次に、形を整えるために打ち欠いた面(剥離面)を、ディバイダーという道具で測って図に加えます。剥離された順番に気を付けながら、この点どうしを線でつなげると、剥離面の輪郭(りんかく)線ができあがります。実測図で描く線は、

## 第19回 「石器の実測図のはなし」



濃淡ではなく太さの違いで表します。

そして、ここが一番難しい作業、剥離したときにできる同心円状の曲線(リング)と放射状の線(フィッシャー)の様子も、しっかりと表現します。ここで実測者のセンスが問われます。

このような実測によって、実物や写真だけでは理解できない情報を明らかにしていくのです。

(T.E記)

※「ちっとんべえ」とは、羽村の昔ことばで「ちょっと、少しばかり」という意味です。